

講義概要

SYLLABUS

令和5年度

2年後期

理学療法学科

神戸リハビリテーション衛生専門学校

KOBE COLLEGE OF REHABILITATION AND HEALTH

講義名 精神医学

講師 森本 兼司 病院で精神保健福祉士として約23年の勤務経験がある。その経験を活かして、精神医学を講義する。

学年・期 2年後期。1単位。30時間（講義）

講義目標 精神障害の概念、成因、病状、治療について理解する。

授業計画

第1回	精神医学総論①
第2回	精神医学総論②
第3回	統合失調症①
第4回	統合失調症②
第5回	気分障害①
第6回	気分障害②
第7回	認知症
第8回	中毒症状
第9回	てんかん
第10回	心因性精神疾患①
第11回	心因性精神疾患②
第12回	少年期・青年期の精神障害
第13回	精神科治療法①
第14回	精神科治療法②
第15回	精神科治療法③

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：森本

テキスト 「PT・OT基礎から学ぶ精神医学ノート 第2版」（医歯薬出版）

参考図書
その他

講義名	臨床薬学・栄養学		
講師	吉野 伸		
	黒部 正孝	病院で理学療法士として約5年の勤務経験がある。その経験を活かして栄養学を講義する。	
学年・期	2年後期. 1単位. 30時間 (講義)		
講義目標	薬物療法と栄養の基礎		
授業計画	第1回	臨床薬学総論	(吉野)
	第2回	薬の体内動態	(吉野)
	第3回	薬物作用の仕組み	(吉野)
	第4回	薬物に及ぼす要因	(吉野)
	第5回	薬物相互作用	(吉野)
	第6回	副作用、中毒	(吉野)
	第7回	サプリメント	(吉野)
	第8回	栄養学の重要性	(黒部)
	第9回	栄養学の基礎①	(黒部)
	第10回	栄養学の基礎②	(黒部)
	第11回	栄養学の基礎③	(黒部)
	第12回	主な疾患の栄養療法①	(黒部)
	第13回	主な疾患の栄養療法②	(黒部)
	第14回	主な疾患の栄養療法③	(黒部)
	第15回	リハビリテーション栄養のまとめ	(黒部)
履修上の注意	栄養学については、主に教科書を用いて講義をする。そのため、予習することが望ましい。また、授業中は、積極的な発言を求める。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：吉野		
テキスト	「系統看護学講座専門基礎分野薬理学 疾病のなりたちと回復の促進③」 (医学書院) 「リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第3版」 (医歯薬出版)		
参考図書 その他			

講義名	理学療法評価演習Ⅳ		
講師	伊藤 望美	病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして。理学療法評価演習Ⅳを講義する。	
	日良 葉子	病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして。理学療法評価演習Ⅳを講義する。	
	高橋 優基	病院で理学療法士として約13年の勤務経験がある。その経験を活かして。理学療法評価演習Ⅳを講義する。	
	楠 貴光	病院で理学療法士として約10年の勤務経験がある。その経験を活かして。理学療法評価演習Ⅳを講義する。	
学年・期	2年後期。1単位。30時間（講義）		
講義目標	理学療法の職場管理において求められる管理業務の基本、臨床教育の基本について学び、理解することを目的とする。		
授業計画	第1回	CT・MRI画像のみかた（総論）	（日良）
	第2回	CT・MRI画像のみかた（中枢神経系疾患）	（日良）
	第3回	CT・MRI画像のみかた（骨関節系疾患）	（日良）
	第4回	CT・MRI画像のみかた（内部障害系疾患）	（日良）
	第5回	理学療法士のための超音波エコーの見方①	（楠）
	第6回	理学療法士のための超音波エコーの見方②	（楠）
	第7回	理学療法士のための超音波エコーの見方③	（楠）
	第8回	理学療法士のための超音波エコーの見方④	（楠）
	第9回	理学療法士のためのレントゲン画像の見方①	（楠）
	第10回	理学療法士のためのレントゲン画像の見方②	（楠）
	第11回	理学療法士のためのレントゲン画像の見方③	（楠）
	第12回	理学療法士のための動作解析画像の見方	（楠）
	第13回	理学療法士のための心電図波形の見方①	（伊藤）
	第14回	理学療法士のための心電図波形の見方②	（伊藤）
	第15回	理学療法士のための筋電図波形の見方	（高橋）
履修上の注意	講義内容により講義教室が変更する可能性があるため、必ず週間時間割で確認すること。		
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：楠		
テキスト	「標準理学療法学・作業療法学・言語聴覚障害学 別巻 画像評価」（医学書院）		
参考図書 その他			

講義名	脳血管障害理学療法演習		
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、脳血管障害理学療法演習を講義する。	
	日良 葉子	病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、脳血管障害理学療法演習を講義する。	
学年・期	2年後期、2単位、60時間（講義）		
講義目標	脳血管障害の経過、障害像、リスク管理を理解する。脳血管障害の症例を提示し、一連の理学療法評価および理学療法の知識・技術を習得する。		
授業計画	第1回	脳血管障害急性期の病態	（日良）
	第2回	脳血管障害急性期の特徴	（日良）
	第3回	脳血管障害急性期の内科的治療	（嘉戸）
	第4回	脳血管障害急性期の外科的治療	（嘉戸）
	第5回	脳血管障害急性期の理学療法評価	（嘉戸）
	第6回	脳血管障害急性期の理学療法	（嘉戸）
	第7回	脳血管障害急性期のリスク管理	（嘉戸）
	第8回	脳血管障害の情報収集	（嘉戸）
	第9回	筋緊張（筋緊張と痙縮の定義）	（嘉戸）
	第10回	静止時筋緊張検査、他動運動での筋緊張検査、動作時筋緊張検査、深部反射	（嘉戸）
	第11回	脳血管障害患者の姿勢観察（ビデオ）	（日良）
	第12回	脳血管障害患者の姿勢観察（ビデオ）	（日良）
	第13回	脳血管障害患者の立ち上がり動作観察（ビデオ）	（日良）
	第14回	脳血管障害患者の立ち上がり動作観察（ビデオ）	（日良）
	第15回	脳血管障害患者の歩行動作観察（ビデオ）	（日良）
履修上の注意			
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：嘉戸		
テキスト	「神経疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価」（神陵文庫）		
参考図書 その他			

講義名	脳血管障害理学療法演習		
講師	嘉戸 直樹	病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、脳血管障害理学療法演習を講義する。	
	日良 葉子	病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、脳血管障害理学療法演習を講義する。	
学年・期	2年後期、2単位、60時間（講義）		
講義目標	脳血管障害の経過、障害像、リスク管理を理解する。脳血管障害の症例を提示し、一連の理学療法評価および理学療法の知識・技術を習得する。		
授業計画	第16回	脳血管障害患者の歩行動作観察（ビデオ）	（日良）
	第17回	脳血管障害患者の寝返り動作観察（ビデオ）	（日良）
	第18回	脳血管障害患者の寝返り動作観察（ビデオ）	（日良）
	第19回	脳血管障害患者の検査測定	（日良）
	第20回	脳血管障害患者の検査測定	（日良）
	第21回	脳血管障害患者の検査測定	（日良）
	第22回	脳血管障害患者の検査測定	（日良）
	第23回	動作分析（関節運動の解釈、関連図の作成）	（嘉戸）
	第24回	統合と解釈、問題点の抽出、目標設定	（嘉戸）
	第25回	模擬症例の立ち上がり動作の関連図作成	（日良）
	第26回	模擬症例の立ち上がり動作の関連図作成	（日良）
	第27回	模擬症例の歩行動作の関連図作成	（日良）
	第28回	模擬症例の歩行動作の関連図作成	（日良）
	第29回	模擬症例の統合と解釈	（日良）
	第30回	模擬症例の問題点の抽出、治療プログラム	（日良）
履修上の注意			
成績評価	期末試験により判断する。単位認定者：嘉戸		
テキスト	「神経疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス） 「脳血管障害片麻痺に対する理学療法評価」（神陵文庫）		
参考図書 その他			

講義名 神経筋疾患理学療法学

講師 後藤 淳

学年・期 2年後期、2単位、60時間（講義）

講義目標 神経筋疾患の評価と理学療法について理解する。

授業計画

第1回	脳血管障害の病態、症状、治療
第2回	脳腫瘍・頭部外傷の病態、症状、治療
第3回	中枢神経感染症の病態、症状、治療
第4回	脱髄疾患の病態、症状、治療
第5回	変性疾患の病態、症状、治療
第6回	脊椎・脊髄疾患の病態、症状、治療
第7回	末梢神経疾患の病態、症状、治療
第8回	ミオパチーの病態、症状、治療
第9回	神経筋疾患に対する理学療法評価
第10回	神経筋疾患に対する理学療法
第11回	脳血管障害に対する評価と理学療法
第12回	脳腫瘍・頭部外傷に対する評価と理学療法
第13回	中枢神経感染症に対する評価と理学療法
第14回	脱髄疾患に対する評価と理学療法
第15回	変性疾患に対する評価と理学療法

履修上の注意

成績評価 課題テスト並びに期末試験により判断する。単位認定者：後藤

テキスト 「神経疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス）

参考図書
その他

講義名 神経筋疾患理学療法学

講師 後藤 淳

学年・期 2年後期. 2単位. 60時間 (講義)

講義目標 神経筋疾患の評価と理学療法について理解する。

授業計画

第16回	脊椎・脊髄疾患に対する評価と理学療法
第17回	末梢神経疾患に対する評価と理学療法
第18回	ミオパチーに対する評価と理学療法
第19回	神経疾患に対する理学療法総論
第20回	基本的な検査測定
第21回	環境設定とポジショニング
第22回	トランスファー
第23回	神経筋疾患に対する理学療法でのリスク管理
第24回	神経筋疾患に対する理学療法での目標設定
第25回	神経筋疾患に対する理学療法のマネジメント
第26回	神経筋疾患患者の動作観察・分析
第27回	神経筋疾患の事例検討①
第28回	神経筋疾患の事例検討②
第29回	神経筋疾患の事例検討③
第30回	神経筋疾患の事例検討④

履修上の注意

成績評価 課題テスト並びに期末試験により判断する。単位認定者：後藤

テキスト 「神経疾患を学ぶ」 (編集工房ソシエタス)

参考図書
その他

講義名 骨関節疾患理学療法演習

講師 高橋 優基 病院で理学療法士として約13年の勤務経験がある。その経験を活かして、骨関節疾患理学療法演習を講義する。
黒部 正孝 病院で理学療法士として約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、骨関節疾患理学療法演習を講義する。
楠 貴光 病院で理学療法士として約9年の勤務経験がある。その経験を活かして、骨関節疾患理学療法演習を講義する。

学年・期 2年後期、2単位、60時間（演習）

講義目標

- ・骨関節疾患に対する理学療法の考え方に習熟する。
- ・正しい関節運動を理解する。
- ・基本的理学療法の概略を理解し、実践する。

授業計画	第1回	関節可動域制限のメカニズム	(高橋)
	第2回	筋力低下、筋力向上のメカニズム	(高橋)
	第3回	上肢の骨関節疾患に対する理学療法の考え方	(楠)
	第4回	肩甲帯の骨関節疾患に対する理学療法評価	(楠)
	第5回	肩関節の骨関節疾患に対する評価と理学療法	(楠)
	第6回	肘関節の骨関節疾患に対する評価と理学療法	(楠)
	第7回	前腕の骨関節疾患に対する評価と理学療法	(楠)
	第8回	手・手指の骨関節疾患に対する評価と理学療法	(楠)
	第9回	下肢・体幹の骨関節疾患に対する理学療法の考え方	(高橋)
	第10回	股関節・骨盤の骨関節疾患に対する理学療法の考え方	(高橋)
	第11回	大腿部の骨関節疾患に対する評価と理学療法	(高橋)
	第12回	膝関節・下腿部の骨関節疾患に対する評価と理学療法	(高橋)
	第13回	足部・足趾の骨関節疾患に対する評価と理学療法	(高橋)
	第14回	頭頸部の骨関節疾患に対する評価と理学療法	(高橋)
	第15回	胸腰部の骨関節疾患に対する評価と理学療法	(高橋)

履修上の注意 実技授業があるので、いつでも実技に対応できる服装を準備しておくこと。

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：高橋

テキスト 「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス）

参考図書
その他 「Muscle stretching in manual therapy」（Alfta Rehab）
「Auto stretching」（Alfta Rehab）
「ファンクショナルエクササイズ」（ブックハウスHD）

講義名 骨関節疾患理学療法演習

講師 高橋 優基 病院で理学療法士として約13年の勤務経験がある。その経験を活かして、骨関節疾患理学療法演習を講義する。
黒部 正孝 病院で理学療法士として約5年の勤務経験がある。その経験を活かして、骨関節疾患理学療法演習を講義する。
楠 貴光 病院で理学療法士として約9年の勤務経験がある。その経験を活かして、骨関節疾患理学療法演習を講義する。

学年・期 2年後期、2単位、60時間（演習）

講義目標

- ・骨関節疾患に対する理学療法の考え方に習熟する。
- ・正しい関節運動を理解する。
- ・基本的理学療法の概略を理解し、実践する。

授業計画	第16回	骨関節疾患患者の動作に対する評価	（高橋）
	第17回	骨関節疾患患者の姿勢観察（ビデオ）	（黒部）
	第18回	骨関節疾患患者の姿勢観察（ビデオ）	（黒部）
	第19回	骨関節疾患患者の歩行動作観察（ビデオ）	（黒部）
	第20回	骨関節疾患患者の歩行動作観察（ビデオ）	（黒部）
	第21回	動作観察（関節運動の解釈、関連図の作成）	（高橋）
	第22回	歩行動作の関連図作成	（黒部）
	第23回	歩行動作の関連図作成	（黒部）
	第24回	骨関節疾患患者の検査測定	（黒部）
	第25回	骨関節疾患患者の検査測定	（黒部）
	第26回	統合と解釈、問題点の抽出、目標設定、治療プログラム	（高橋）
	第27回	統合と解釈	（黒部）
	第28回	統合と解釈	（黒部）
	第29回	問題点の抽出、目標設定	（黒部）
	第30回	治療プログラムの立案	（黒部）

履修上の注意 実技授業があるので、いつでも実技に対応できる服装を準備しておくこと。

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：高橋

テキスト 「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス）

参考図書 「Muscle stretching in manual therapy」（Alfta Rehab）
その他 「Auto stretching」（Alfta Rehab）
「ファンクショナルエクササイズ」（ブックハウスHD）

講義名 小児疾患理学療法学

講師 大沼 俊博 病院で理学療法士として約24年の勤務経験がある。その経験を活かして、小児疾患理学療法学を講義する。

学年・期 2年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 小児疾患についての理解を深める。

授業計画

第1回	脳性麻痺（CP）に対する評価と理学療法①
第2回	脳性麻痺（CP）に対する評価と理学療法②
第3回	低出生体重児に対する評価と理学療法
第4回	重度痙直型四肢麻痺に対する評価と理学療法①
第5回	重度痙直型四肢麻痺に対する評価と理学療法②
第6回	中等度・軽度痙直型四肢麻痺に対する評価と理学療法
第7回	痙直型両麻痺に対する評価と理学療法
第8回	アテトーゼ型に対する評価と理学療法
第9回	痙直型片麻痺に対する評価と理学療法
第10回	失調型に対する評価と理学療法
第11回	弛緩型に対する評価と理学療法
第12回	精神発達障害に対する評価と理学療法
第13回	二分脊椎に対する評価と理学療法
第14回	筋ジストロフィー症に対する評価と理学療法
第15回	小児疾患におけるリスクと患者・家族教育

履修上の注意 実技では動きやすい服装を準備してください。

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：大沼

テキスト

参考図書 配付資料
その他

講義名 脊髄疾患理学療法学

講師 伊藤 望美 病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして脊髄疾患理学療法学を講義する。

学年・期 2年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 脊髄損傷に対する評価と理学療法について理解する。

授業計画

第1回	脊髄損傷の疫学について
第2回	完全損傷と不完全損傷、脊髄ショックについて
第3回	不全損傷の特殊型について
第4回	自律神経障害について
第5回	褥瘡と除圧、関節拘縮について
第6回	脊髄損傷のレベル推定と損傷高位の表示について
第7回	脊髄損傷の理学療法評価（形態測定、関節可動域測定）
第8回	脊髄損傷の理学療法評価（筋力検査、感覚検査）
第9回	Zancolliの分類
第10回	Frankeiの分類、ASIAの分類
第11回	脊髄損傷の排尿管理
第12回	脊髄損傷の臨床症状と動作指導
第13回	頸髄損傷の理学療法
第14回	胸髄・腰髄損傷の理学療法
第15回	二分脊椎

履修上の注意 講義内容により講義教室が変更する可能性があるため、必ず週間時間割で確認すること。

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：伊藤

テキスト 「脊髄損傷理学療法マニュアル 第3版」（文光堂）

参考図書 配布資料
その他

講義名 老人理学療法学

講師 日良 葉子 病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、老人理学療法学を講義する。

学年・期 2年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 老化による臓器の変化と、臓器の変化を基礎にして引き起こされる老年期障害（老年症候群、虚弱、認知症、うつ、せん妄、末梢循環障害、摂食嚥下障害、誤嚥性肺炎、骨粗鬆症、褥瘡、ターミナルケア）とその理学療法について理解する。

授業計画

第1回	高齢者の特性
第2回	老年症候群
第3回	老化による変化
第4回	老化のメカニズム（骨格系）
第5回	老化のメカニズム（神経系）
第6回	老化のメカニズム（内臓系）
第7回	高齢者に対するリハビリテーションのリスク管理
第8回	睡眠障害とうつ
第9回	骨粗鬆症と筋力低下
第10回	認知症とせん妄
第11回	糖尿病と虚血性心疾患
第12回	廃用症候群
第13回	褥瘡
第14回	摂食嚥下障害と誤嚥性肺炎
第15回	ターミナルケア

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：日良

テキスト

参考図書 配布資料
その他

講義名 内部障害理学療法学

講師 藤原 聡

学年・期 2年後期. 1単位. 30時間 (講義)

講義目標 内部障害（呼吸器疾患、循環器疾患、腎機能疾患、糖尿病など）に対する理学療法の意味、目的を理解し、リスク管理とQOLを含めた理学療法が施行できることを目的とする。

授業計画

第1回	総論、糖尿病の病態・検査と治療
第2回	糖尿病の合併症と治療
第3回	糖尿病に対する理学療法
第4回	患者教育
第5回	虚血性心疾患の病態・検査と治療
第6回	心臓弁膜症と大動脈疾患の病態・検査と治療
第7回	慢性心不全の病態・検査と治療
第8回	心臓リハビリテーション
第9回	心電図の診かた I
第10回	心電図の診かた II
第11回	呼吸器系の解剖・運動
第12回	呼吸器系の生理
第13回	呼吸不全の病態と呼吸器疾患
第14回	呼吸理学療法のための評価
第15回	呼吸理学療法と酸素療法、人工呼吸療法

履修上の注意 講義内容が実技の際は、運動可能な服装で受講すること（事前に連絡する）
講義内容により講義教室が変更する可能性があるため、必ず担当教員に確認すること

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：藤原

テキスト 「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト内部障害理学療法学（循環・代謝）第2版」
「15レクチャーシリーズ理学療法テキスト内部障害理学療法学（呼吸）第3版」
（中山書店）

参考図書 配布資料
その他 「内部障害理学療法学テキスト」（南江堂）
「内部障害系理学療法学」（メジカルビュー社）

講義名 義肢装具学

講師 伊藤 望美 病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、義肢装具学を講義する。

学年・期 2年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、義肢や装具の目的、種類、アライメント調整、適合性の確認について理解する。

授業計画

第1回	装具総論
第2回	短下肢装具
第3回	長下肢装具、股装具、膝装具
第4回	靴型装具
第5回	上肢装具
第6回	体幹装具
第7回	疾患別の装具
第8回	義肢総論
第9回	断端の評価・管理
第10回	下腿義足
第11回	大腿義足
第12回	股義足、膝義足
第13回	サイム義足、足部義足
第14回	義足異常歩行
第15回	義手

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：伊藤

テキスト 「シンプル理学療法学シリーズ 義肢装具学テキスト 改訂第3版」（南江堂）

参考図書 配布資料
その他

講義名 日常生活活動演習

講師 前田 剛伸 病院で理学療法士として約11年の勤務経験がある。その経験を活かして、日常生活活動演習を講義する。

学年・期 2年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 安全かつ効果的な理学療法が提供できるように、疾患・障害に関係なく適用される基本的な技術について、知識を修得する。

授業計画	第1回	セルフケア能力低下に対する生活指導	杖の種類と長さの適合
	第2回	セルフケア能力低下に対する生活指導	杖歩行の指導
	第3回	セルフケア能力低下に対する生活指導	松葉杖の種類と長さの適合
	第4回	セルフケア能力低下に対する生活指導	松葉杖歩行の指導
	第5回	セルフケア能力低下に対する生活指導	片麻痺のADL指導（起居動作）
	第6回	セルフケア能力低下に対する生活指導	片麻痺のADL指導（移動動作）
	第7回	セルフケア能力低下に対する生活指導	片麻痺のADL指導（身のまわり動作）
	第8回	セルフケア能力低下に対する生活指導	脊髄損傷のADL指導
	第9回	セルフケア能力低下に対する生活指導	車いすの適合
	第10回	セルフケア能力低下に対する生活指導	車いすへの移乗指導
	第11回	セルフケア能力低下に対する生活指導	関節リウマチのADL指導
	第12回	セルフケア能力低下に対する生活指導	THAのADL指導
	第13回	セルフケア能力低下に対する生活指導	呼吸器疾患のADL指導
	第14回	セルフケア能力低下に対する生活指導	白杖の使い方
	第15回	まとめ	

履修上の注意 いつでも実技に対応できる服装を準備しておくこと。

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：前田

テキスト 「シンプル理学療法学シリーズ 日常生活活動学テキスト 改訂第3版」（南江堂）

参考図書 配布資料
その他

講義名 総合理学療法演習

講師 大沼 俊博 病院で理学療法士として約24年の勤務経験がある。その経験を活かして、総合理学療法演習を講義する。
三浦 雄一郎 病院で理学療法士として約30年の勤務経験がある。その経験を活かして、総合理学療法演習を講義する。
渡邊 裕文 病院で理学療法士として約33年の勤務経験がある。その経験を活かして、総合理学療法演習を講義する。
嘉戸 直樹 病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、総合理学療法演習を講義する。
日良 葉子 病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、総合理学療法演習を講義する。

学年・期 2年後期、2単位、60時間（演習）

講義目標 臨床の場に応じた最新の理学療法理論や技術について理解する。

授業計画	第1回	感覚障害について	(大沼)
	第2回	感覚障害に対する評価の考え方	(大沼)
	第3回	検査（表在感覚）	(大沼)
	第4回	検査（深部感覚）	(大沼)
	第5回	感覚障害に対する理学療法の考え方	(大沼)
	第6回	感覚障害に対する理学療法技術	(大沼)
	第7回	運動器疾患に対する評価の考え方	(三浦)
	第8回	運動器疾患に対する理学療法の考え方	(三浦)
	第9回	肩関節の運動器疾患に対する評価	(三浦)
	第10回	肩関節の運動器疾患に対する理学療法	(三浦)
	第11回	関節可動域制限に対する評価と理学療法	(三浦)
	第12回	筋力低下に対する評価と理学療法	(三浦)
	第13回	筋緊張について	(渡邊)
	第14回	姿勢と運動における筋緊張	(渡邊)
	第15回	筋緊張異常に対する評価と理学療法の考え方	(渡邊)

履修上の注意 実技に対応できる服装を準備しておくこと。

成績評価 実技試験により判断する。

テキスト 「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス）
「神経疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス）

参考図書 「The Center of Body－体幹機能の謎を探る－」（アイペック）
その他

講義名 総合理学療法演習

講師 大沼 俊博 病院で理学療法士として約24年の勤務経験がある。その経験を活かして、総合理学療法演習を講義する。
三浦 雄一郎 病院で理学療法士として約30年の勤務経験がある。その経験を活かして、総合理学療法演習を講義する。
渡邊 裕文 病院で理学療法士として約33年の勤務経験がある。その経験を活かして、総合理学療法演習を講義する。
嘉戸 直樹 病院で理学療法士として約25年の勤務経験がある。その経験を活かして、総合理学療法演習を講義する。
日良 葉子 病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。その経験を活かして、総合理学療法演習を講義する。

学年・期 2年後期、2単位、60時間（演習）

講義目標 臨床の場に応じた最新の理学療法理論や技術について理解する。

授業計画	第16回	体幹部の筋緊張異常に対する評価と理学療法	(渡邊)
	第17回	上肢の筋緊張異常に対する評価と理学療法	(渡邊)
	第18回	下肢の筋緊張異常に対する評価と理学療法	(渡邊)
	第19回	ウイメンズヘルス（女性特有の機能構造）	(日良)
	第20回	ウイメンズヘルス（妊娠・出産）	(日良)
	第21回	ウイメンズヘルス（失禁）	(日良)
	第22回	理学療法評価について	(嘉戸)
	第23回	筋緊張検査	(嘉戸)
	第24回	バイタルサインの評価	(嘉戸)
	第25回	筋力検査	(嘉戸)
	第26回	関節可動域測定	(嘉戸)
	第27回	形態測定	(嘉戸)
	第28回	ADL評価	(嘉戸)
	第29回	起居動作の介助	(嘉戸)
	第30回	移動動作の介助	(嘉戸)

履修上の注意 実技に対応できる服装を準備しておくこと。

成績評価 実技試験により判断する。

テキスト 「運動器疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス）
「神経疾患を学ぶ」（編集工房ソシエタス）

参考図書 「The Center of Body－体幹機能の謎を探る－」（アイペック）
その他

講義名 生活環境論

講師 伊藤 望美 病院で理学療法士として約20年の勤務経験がある。福祉住環境コーディネーター2級を所持。その経験を活かして、生活環境論を講義する。

学年・期 2年後期、1単位、30時間（講義）

講義目標 住環境整備の知識を蓄え実際の在宅や施設など、地域における生活を支援するために必要な知識や技術を習得し、課題解決能力を培う。

授業計画

第1回	生活環境論 総論
第2回	高齢者を取り巻く社会状況と住環境
第3回	障害者を取り巻く社会状況と住環境
第4回	障害のとらえ方と自立支援のあり方
第5回	生活環境整備に関する法的制度
第6回	福祉住環境整備の基本技術と実践に伴う知識
第7回	疾患別・障害別にみた福祉住環境整備の考え方
第8回	高齢者の転倒対策としての住環境整備の考え方
第9回	住環境整備における手すりの取り付け、建具の考え方
第10回	住環境整備における段差の解消、スペースの整備方法
第11回	トイレの環境整備について
第12回	浴室の環境整備について
第13回	脳血管障害患者のトイレの環境整備について
第14回	脳血管障害患者の浴室の環境整備について
第15回	神経筋疾患患者の住環境整備について

履修上の注意

成績評価 期末試験により判断する。単位認定者：伊藤

テキスト 「シンプル理学療法学・作業療法学シリーズ 生活環境学テキスト 改訂第2版」
(南江堂)

参考図書 配布資料
その他

講義名 評価実習

講師 臨床実習指導者 理学療法士として病院や施設で5年以上の勤務経験があり、厚生労働省指定の講習会を修了した。その経験を活かして、評価学実習での指導をおこなう。

学年・期 2年後期、2単位、90時間

講義目標 トップダウン評価の過程を患者様に実施し、動作分析の考え方や具体的な検査測定技術を習得する。

実習計画 評価実習 医療チームの一員として行動し、多職種と協働する。また、患者様に対し、動作分析や検査測定を施行し、トップダウン過程による理学療法評価を円滑に実施する。

履修上の注意 常に社会人としての姿勢を忘れずに責任をもって行動すること。
実習指導者や患者様への言葉づかいに注意し、服装や容姿にも気を配り、しっかりと挨拶ができ、好感もてる態度で臨むこと。
積極的な態度で臨み、実習指導者の指導を受けながら教科書や参考図書を用いて臨床での疑問をできるだけ早い時期に解決できるように心がけること。
評価学実習終了後に、学内にて評価実習セミナーを実施する。

成績評価 実習評価表に基づき、出席状況、情意面・知識面・技術面、およびレポート等の提出状況について実習指導者と本校教員が判定する。
単位認定者：前田剛伸

テキスト

参考図書 臨床実習要項
その他
